みはら情景 わたしの想い出 ㉒西浜港

▲昭和初期頃の西浜港の一角

▲明治中期頃から徐々に埋め立てが進められ、現在のようになった港町

水路交通が栄えた町

現在の市役所本庁舎のあたりは、昭和初期頃までは入り江となっていて、西浜港といわれていました。青果市場に野菜などを売りにくる船や、材木を運搬する船など、さまざまな船が出入りしていました。近隣の島から品物を売りに来る人は、三原の街で買い物をして帰っていきました。幸崎方面からも、陸を通るより便利で早いのが船での交通でした。

港町で生まれ育った勝村篤博さんは、幼い頃の想い出を語ります。「帝人橋（曙橋）からよく飛び込んだものです。泡が切れないように、仲間を引き連れて次々に飛び込みました」と勝村さん。水がきれいで、夏場はシャワーを浴びているように気持ちよかったといいます。

家族の手伝いで、材木を船に積む作業などもしていました。揺れる船に足元が安定せず、重い材木とともに海に落ちてしまったこともあります。「真冬の海は本当に冷たかったです」と苦い想い出も語ってくれました。

子ども時代、欲しい物も簡単には与えてもらえず、厳しくしつけられたことで、物のありがたみを教えられたという勝村さん。「今の子どもたちにも、もったいないという気持ちを、持ってもらいたいですね。そこから感謝の気持ちが生まれます」と語ってくれました。

勝村　篤博さん
（港町三丁目）
「やんちゃな子ども時代は、よく叱られていました」

市民憲章

わたしたちは、海・山・空　夢ひらくまち三原をめざして、この憲章を定めます。

一　豊かな自然をいかし、美しいまちにしましょう。
一　歴史と文化を大切にし、人をはぐくむまちにしましょう。
一　みんなで助け合い、人がふれあうまちにしましょう。
一　心もからだも健康で、明るいまちにしましょう。
一　楽しく働き、活力あるまちにしましょう。

三原市歌

未来へ　かがやく三原

一　和久原沼田の　流れ清く
　　しまなみ遙か　瀬戸の海
　　文化と歴史　はぐくみ伝え
　　未来へ
　　かがやく三原

二　龍王宇根の　緑ふかく
　　ひろがる大地　高い空
　　希望と願い　翼に乗せて
　　世界へ
　　はばたく三原

税の納期

◎市県民税（第４期）
◎国民健康保険税（第７期）
◎介護保険料普通徴収（第７期）
納期限　１月**31**日（水）
※税金・保険料は納期限までに納めましょう。

各図書館、各支所でＣＤの貸し出しを行なっています。

三原市の人口

（11月30日現在）

世帯数	43,461世帯	（＋554）
人　口	105,402人	（－273）
男	50,581人	（－ 52）
女	54,821人	（－221）

（　）内は前年同月との比較

あ・と・が・き

明けましておめでとうございます。干支は戌から亥へバトンタッチ。新しい年をいかがお過ごしでしょうか▼年末年始の過ごし方は、それぞれあると思いますが、わが家では、さかのぼること数十年前、大みそかの夜は、早めに用事を片付けて、家族そろってテレビの前に集合。レコード大賞と紅白歌合戦を見るのが習慣でした。子どもの頃のお正月の楽しみは、おもち餅が食べられること。特に雑煮が好きで、冬休みが終わり三学期が始まっても、当分の間、毎朝お餅三つ入りの雑煮を作ってもらっていたことを懐かしく思い出しました▼何はともあれ、新しい年を迎えるということは、気持ちも引き締まるものですね。皆さんは、新しい年にどんな願いをこめられましたか。今年も広報みはらをよろしくお願いします。（ま）

資源保護のため「広報みはら」は再生紙および大豆インクを使用しています。

編集・発行／三原市秘書広報課（〒723-8601　広島県三原市港町三丁目５番１号　☎0848(67)6007）　毎月１日発行
「広報みはら」は市役所１階ロビーと各支所、サン・シープラザとうきしろロビーの窓口にも備えています。また、点字版や録音テープの「広報みはら」も発行しています。問い合わせは秘書広報課へ。